



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

2月号—No.357
2025.1.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【香色(こういろ)】灰色がかった黄赤色。

丁子(ちょうじ)の煮汁で染めた色。丁子はフトモモ科の常緑樹であるチョウジノキの蕾を乾燥させたもので、香辛料としてお馴染みの釘形をしたグローブのこと。非常に香りが高く、染めた布にも香りが移ることから香色の名がついた。平安貴族に愛され、「源氏物語」にも色名として登場している。ちなみに、承和色(そがいろ)、丁子色も同じく丁子染の色名。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「地域文化資産ポータル」のご紹介

財団からのお知らせ..... 4

「公共ホール邦楽活性化事業」令和8・9年度登録演奏家募集
2024年度「地域の公立文化施設実態調査」ご協力の御礼
公共ホール求人情報 掲載お申し込み方法

今月の情報..... 5

地域通信

制作基礎知識シリーズ Vol.54..... 10

地方独立行政法人

今月のレポート..... 12

神戸市 神戸文化ホール ヴェルディ:オペラ『ファルススタッフ』

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

伝統芸能の映像記録を支援して25年

地域文化資産ポータルのご紹介



写真

左上: 沖縄市古謝の獅子舞

右上: 映像記録保存事業で作成されたDVD

左下: 地域文化資産ポータルHP

右下: 検索画面の例(輪島市の曳山祭り)

*文化資産の分類(件数は延べ)

- 祭り
- 祭礼(神社行事)、法会(寺院行事)、年中行事、人生儀礼
- 口承文芸
- 神話・伝説、昔話・民謡
- 伝統芸能
- 神楽・競技、風流芸・人形芸、能・狂言・歌舞伎、田楽・音曲、その他
- 伝統技能
- 農林水産業、手工、狩猟、製紙・染色、建造
- 習俗
- 衣・食・住、社会生活、礼儀作法、教育

●映像記録保存事業、地域文化資産ポータルに関する問い合わせ

総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

今年度設立30周年を迎えた地域創造では、設立5年目の平成11(1999)年度からふるさとの誇りである地域伝統芸能の保存・継承・発展を支援する事業に着手しました。なかでも、失われつつある伝統芸能等(伝統芸能、伝統技能、祭り、伝説、神話、民話、習俗等)の映像記録を支援する「映像記録保存事業」は大きな成果を収めています。今回のレターではこの事業により収録された映像記録をインターネットで公開する「地域文化資産ポータル」について紹介します。

映像記録保存事業では、令和6(2024)年度までの25年間で計446件の収録を支援。平成18(2006)年度から順次デジタルコンテンツ化し、インターネットで広く発信する地域文化資産ポータル(<https://bunkashisan.ne.jp/>)を構築して運用を開始しました。2020年にはYouTubeでの発信に切り替えるとともに、「地域」「分類」「開催月」から検索できるよう大規模なりニューアルを実施。2025年1月現在で、全都道府県にわたる計581件を公開し、伝統芸能等の映像

アーカイブとしては日本最大級の規模になっています(一部、著作権等の関係によりYouTubeで未公開のもの、映像記録保存事業以外で収録されたものを含む)。

この事業では、自治体からの応募により、多い年で30件余りの収録を支援してきました。地域文化資産ポータルで公開している記録映像は、その成果として提出された3分のダイジェスト版と30分程度の本編映像がベースになっています。収録では記録性を重視するとともに、文化のおよび歴史の特徴などをナレーションで紹介。各コンテンツには解説文も付けられています。また、芸能を開催月毎にまとめた情報一覧や、その月を代表する芸能をピックアップする「注目の動画」などのコーナーを設けて、情報発信しています。

公開映像の内訳は、ジャンル別では、祭り257件、口承文芸29件、伝統芸能255件、伝統技能40件、習俗61件となっています(*)。地域別では、北海道・東北107件、関東109件、中部110件、近畿46件、中国37件、四国26

件、九州・沖縄146件で、県別では福島県と埼玉県の35件をトップに、沖縄県(34件)、宮崎県(23件)、愛知県(21件)が続いています。東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県の芸能の数々、能登半島地震で復興途上にある輪島市の曳山祭りや珠洲市の揚げ浜式製塩の技、また、合併により基礎自治体に変更となった地域の芸能など、貴重な映像が公開されています。

72年に1度開催される茨城県常陸太田市の金砂神社磯出大祭礼のような珍しい祭りや県・市に指定された重要無形文化財の芸能などに加え、祭り屋台の修復の記録、一度途絶えた技術を復活した和ろうそく材料・漆蠟づくり、和紙の技、53メートルの備前焼大釜を再現した窯詰焼成の記録映像など、珍しいコンテンツも多数あります。

累計で最もYouTubeのアクセス数が多かったのは沖縄県沖縄市の「【本編】沖縄市古謝の獅子舞」。毎年旧盆の翌日(7月16日)に厄払い、火難除け、病魔除け、五穀豊穰を祈って行われるもので、古謝翔龍太鼓、ホラ、ドラ鐘などによる琉球音楽に合わせて舞う獅子舞があります。ちなみに全34件の登録がある沖縄県ではこの他にも、旧暦5月4日に行われる観光イベントとしても人気の糸満市のハーレ(大漁と航海の安全を願うミンチュ＝漁師が伝統衣装をまもって勝敗を争う競漕)や、神の島と呼ばれる久高島の年中行事の記録、地域内の12名の男性「ジュニン頭」が生涯に一度の役目として獅子舞を担当する「シーサーケラス」の記録映像など、多彩で貴重な資料が公開されています。

今後も映像記録保存事業により地域伝統芸能等の保存・継承・発展を継続的に支援するとともに、ポータルサイトで公開する予定です。ぜひ、地域文化の理解にご活用いただければと思います。

●「地域文化資産ポータル」都道府県別収録件数(2025年1月現在)

地域	都道府県	掲載件数
北海道・東北	北海道	7
	青森県	18
	岩手県	17
	宮城県	6
	秋田県	15
	山形県	9
	福島県	35
	計	107
関東	茨城県	20
	栃木県	10
	群馬県	12
	埼玉県	35
	千葉県	12
	東京都	13
	神奈川県	7
	計	109
北陸・中部	新潟県	16
	富山県	7
	石川県	12
	福井県	7
	山梨県	6
	長野県	19
	岐阜県	9
	静岡県	13
	愛知県	21
	計	110
	近畿	三重県
滋賀県		6
京都府		3
大阪府		4
兵庫県		5
奈良県		6
和歌山県		13
計		46
中国	鳥取県	4
	島根県	6
	岡山県	11
	広島県	11
	山口県	5
	計	37
四国	徳島県	8
	香川県	8
	愛媛県	4
	高知県	6
	計	26
九州・沖縄	福岡県	17
	佐賀県	14
	長崎県	14
	熊本県	18
	大分県	9
	宮崎県	23
	鹿児島県	17
	沖縄県	34
	計	146
合計		581

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「公共ホール邦楽活性化事業」令和8・9年度登録演奏家募集

公共ホール邦楽活性化事業は、地域創造が派遣する専門家のサポートの下、オーディションで選ばれた演奏家と全国の公共ホールが、邦楽分野でのホールプログラムと参加体験型の地域交流プログラム(アクティビティ)を共につくる事業です。この事業には、「公共ホールの活性化」や「地域における芸術活動を担う人材の育成」、「日本の伝統音楽の継承発展」という目的があります。

令和8・9年度に公共ホール邦楽活性化事業を実施する演奏家を募集します。第1次選考(書類・音源審査)、第2次選考(会場審査)を経て、登録する演奏家数組を決定します。

地域の方々への邦楽の魅力の発信、その地域で邦楽事業を継続していくための基盤づくりに興味のある演奏家のご応募をお待ちしております。公立文化施設等の担当者の方々に

は、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

◎活動内容

コーディネーターと共に担当地域に3日間(4泊5日)程度滞在して、小学校や福祉施設などでの4回のアクティビティとホールプログラム(コンサートまたは公募型ワークショップ)を行います。

◎応募条件

令和8年4月1日時点で満20歳以上40歳以下の邦楽器演奏家。ジャンル・楽器の種類は問いませんが、電子楽器は対象外とし、原則としてPA設備を使用せずにプログラムを組める楽器とします。

◎募集数

若干名

◎選考方法

第1次選考：書類と音源(YouTube)
第2次選考：演奏とトークによるプレゼンテーション
(2025年6月13日(金)実施)

◎募集要項

募集要項および応募用紙は当財団ホームページの邦楽事業ページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>

◎応募締切

2025年4月25日(金)必着

●2024年度「地域の公立文化施設実態調査」ご協力の御礼

当財団が5年に1度の頻度で実施する「地域の公立文化施設実態調査」の2024年度調査にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様から回答いただきました調査票は、現在集計作業を行っております。

調査結果につきましては、今年度中に集計・分析を行い、来年度に報告書を発行いたします。また、過去の調査報告書は当財団ホームページからダウンロードできますので、今後の地域文化施策の充実と公立文化施設の活性化の一助としてぜひご活用ください。

●公共ホール求人情報掲載 お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 求人情報登録フォームへアクセス。
- 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 登録を完了すると自動で登録完了のお知らせメールがお手元に届きます。
- 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2〜3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、「修正フォーム」へアクセスし、投稿用認証キー欄に登録時に使用したメールアドレス・ID・パスワードを、No.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、「編集する」をクリックしてください。フォームから情報を修正し登録を完了すると、自動で登録完了のお知らせメールが届きます。新規登録時と同じく、情報公開までは2〜3日程度お時間をいただく場合がありますのでご了承ください。

●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 森永
Tel. 03-5573-4069

●2024年度地域の公立文化施設実態調査に関する問い合わせ
芸術環境部 今野・児島・天野・和田
Tel. 03-5573-4066

●公共ホール求人情報に関する問い合わせ
芸術環境部 人材育成担当
jinzai@jafra.or.jp

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● 掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

● 2025年4月号情報締切
2025年2月17日(月)

● 2025年4月号掲載対象情報
2025年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

● 札幌市

札幌文化芸術劇場 hitaru
〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目
Tel. 011-271-1950 上鹿渡大希
<https://sapporo-community-plaza.jp/>

Creative Art Mix Vol.3 「Classical Jewels DX～New World～」

新感覚のパフォーミングアーツ公演として、地元の若手アーティストが結集して繰り広げてきた hitaru creation シリーズ6年間の集大成。クラシックの名曲をベースにダンスや映像といった多様な表現のコラボレーションで新たな舞台芸術を創作。社会や時代の流れをモチーフに、「AI/愛」とともにある「新世界」を描き出す。

[日程] 2月9日
[会場] 札幌文化芸術劇場 hitaru

● 岩手県盛岡市

盛岡市文化振興事業団
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通2-9-1
Tel. 019-621-5100 佐藤希美
<https://www.mfca.jp/shiminbunka/>
パイプオルガン ファミリーコンサート

0歳から大人まで家族一緒に楽しめるパイプオルガンコンサート。2歳以下の幼児は無料で鑑賞することができる。今回は、盛岡市民文化ホールのオルガニスト・渋澤久美、声楽家の西國亜紀子が「R.カーリー：きらきら星による変奏曲」のほか、ディズニー・ソング・メドレーなど、子どもにも馴染みの名曲を披露する。

[日程] 2月23日
[会場] 盛岡市民文化ホール

● 仙台市

仙台市市民文化事業団
〒984-0015 仙台市若林区卸

町2-12-13
Tel. 022-782-7510 工藤光紗
<https://www.gekito.jp/>

舞台スタッフ・ラボ×みやぶん 演劇学校「Tale Soup～お話の いっぱい詰まったスープを召し 上げ～」

せんだい演劇工房10-BOXの舞台芸術振興事業のひとつである「舞台スタッフ・ラボ2024」の講師・受講生と、宮城野区文化センターによる演劇を体感するワークショップを通じて日常生活を豊かにするきっかけとする「みやぶん演劇学校」の修了生が、事業の集大成として創作する舞台公演。おとぎ話や子守歌、懐かしい絵本など、お話のたくさん詰まった舞台を入場無料で楽しむことができる。

[日程] 2月16日
[会場] 宮城野区文化センター

● 宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<https://sugimurajun.shiomo.jp/>
2024年度塩竈市杉村惇美術館アーカイブス PROGRAMS

今年度実施した、市民参加によるさまざまなプログラムの活動の様子や成果を紹介する展覧会。美術作品の鑑賞、各種講座やワークショップなどの体験学習や表現活動、地域の実情に合わせた協働的な活動など、活動は多岐にわたり、参加者の年齢層も幅広い。「人とまちを育む美術館」としての役割を担う館として、この展覧会が市民交流の輪を広げる契機となることを目指している。

[日程] 2月1日～16日
[会場] 塩竈市杉村惇美術館

関東

● 栃木県宇都宮市
栃木県立美術館

〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7
Tel. 028-621-3566 鈴木さとみ
<https://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

勝城蒼鳳 よむあむ うつす 一人間国宝に訊く竹の道

2023年1月に逝去した人間国宝の竹工芸家・勝城蒼鳳を追悼する展覧会。初期から晩年までの名品約60件を一堂に紹介する。また、作品の展示だけでなく、勝城が実際に作品イメージを詠んだ俳句や制作に取りかかる前のスケッチなど、創作背景やその源泉にもふれており、今までと違った作品の見方ができる内容となっている。

[日程] 1月18日～3月23日
[会場] 栃木県立美術館

● 埼玉県秩父市

秩父宮記念市民会館
〒368-8686 秩父市熊木町8-15
Tel. 0494-24-6000 高井・千嶋
<https://ccbhall.saitama.jp/>
舞台上ミニパフォーマンスvol.2
[6steps]

アーティストの作品を間近で体験する企画「舞台上ミニパフォーマンス」。2回目の今回は、木村玲奈による6段の階段を使ったダンス作品『6steps』を上演する。階段と身体の関係に注目し、2名のダンサーによる日常に近い動作から、徐々にダンスを通して階段や空間との対話が始まる。一見静かに見えても、深い奥行きを感じさせる作品。公演に登場する階段を使った誰でも参加できるワークショップなど、さまざまな関連プログラムも開催。
[日程] 3月15日
[会場] 秩父宮記念市民会館

● 東京都目黒区

東京都写真美術館
〒153-0062 目黒区三田1-13-3
(恵比寿ガーデンプレイス内)
Tel. 03-3280-0099 田坂・邱・三井
<https://www.yebizo.com/jp/>

総合開館30周年記念

恵比寿映像祭2025

Docs —これはイメージです—

展示や上映、ライブイベント、トークセッションなどを複合的にを行い、映像分野における創造活動の活性化を促すフェスティバル。総合開館30周年を迎えた今年、ドキュメント(事実に基づく情報の記録)が従来より自由に制御可能なデジタルデータへと拡張し、事実とそれを表すイメージとの関係がより複雑で曖昧なものになっている点に着目。イメージと言葉から作品を紐解くことで、「ドキュメント/ドキュメンタリー」の再考を試みる。また「第2回コミッション・プロジェクト」で選出された4名のファイナリストの新作も発表する。

[日程]1月31日～2月16日

[会場]東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス各所ほか

●東京都国立市

くにたち市民芸術小ホール
〒186-0003 国立市富士見台2-48-1

Tel. 042-574-1515 齊藤かおり
<https://kuzaidan.or.jp/hall>

市民参加ダンスプロジェクト

『富士見台ものがたり』

2021年の東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムとして国立市ほか都内で実施された「放課後ダイバーシティダンス」が形を変えて再登場。ファシリテーターにダンサー・振付家の木村玲奈と大園康司、アドバイザーに砂連尾理を迎え、市内外から公募で集まった13人と10回のクリエーションを実施。まちあるきやワークショップを通じて、まちへの思いや体験からオリジナルのダンスを紡ぎ出し、舞台上に思い思いの“まち”を立ち上げる。

[日程]2月21日、22日

[会場]くにたち市民芸術小ホール

●東京都府中市

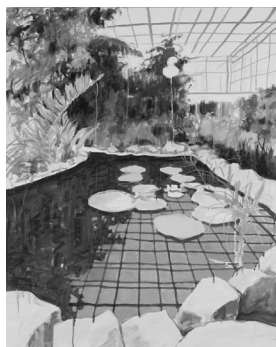
府中市美術館
〒183-0001 府中市浅間町1-3 (都立府中の森公園内)
Tel. 042-336-3371 神山亮子
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art>

小西真奈 Wherever

若手作家の登竜門であるVOCA賞を受賞し、現代の日本において、風景画の可能性を拓げている小西真奈の美術館での初の大規模個展。2006年のVOCA賞を受賞した2点をはじめ、絵画約100点(油彩画約70点、鉛筆画約30点/予定)が展示され、半分以上が初公開の新作および新作は、見る者の緊張を解くような軽やかさとやさしさが魅力となっている。

[日程]2024年12月14日～2月24日

[会場]府中市美術館



小西真奈《Untitled》(2023年)

●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市美術館
〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45
Tel. 0467-88-1177 雲中あみ
<https://www.chigasaki-museum.jp/>

生誕130年 青山義雄とその時代

横須賀市に生まれ、晩年を茅ヶ崎市で過ごした画家・青山義雄(1894～1996)の生誕130年を記念した展覧会。茅ヶ崎市美術館が所蔵するすべての作品をはじめ、同館では初公開となる青山が最晩年に使用していた旅行用パレットなどを展示。また、共

に時代を彩った梅原龍三郎や椿貞雄、三宅克己ら青山と関わりのある画家の作品も併せて展示する。

[日程]2024年12月14日～2月24日

[会場]茅ヶ崎市美術館

●神奈川県秦野市

秦野市立宮永岳彦記念美術館
〒257-0001 秦野市鶴巻北3-1-2
Tel. 0463-78-9100
<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/genre/1000000000239/index.html>

衣装でみる宮永岳彦～伝統と流行～

美人画で知られる宮永岳彦(1919～87)の作品に描かれた「衣装」にフォーカスした企画展。油彩画やポスター、表紙画、日本画など、多岐にわたる作品を残した宮永がさまざまな手法を用いて描いた衣装について、作品に込めた想いや意図とともに紹介。また、民族衣装や舞台衣装などを描いた作品も多いことから、それぞれの時代の文化や背景について知る機会にもなっている。

[日程]2024年12月7日～6月1日

[会場]秦野市立宮永岳彦記念美術館

北陸・中部

●富山県富山市

富山県美術館
〒930-0806 富山市木場町3-20
Tel. 076-431-2711 遠藤亮平
<https://tad-toyama.jp/>

没後20年 東野芳明と戦後美術

戦後に活躍した美術評論家「御三家」の中でも、今までテーマとする展覧会が開かれてこなかった東野芳明(1930～2005)の没後20年を記念して開催する初の企画展。富山県美術館のコレクションや資料の中から、これまで未公開だった資料も含めて

大々的に展示し、東野がライフワークとして研究したマルセル・デュシャン関連の作品・資料と併せて美術評論家としての歩みを紹介する。

[日程]1月25日～4月6日

[会場]富山県美術館

●長野県松本市

松本市芸術文化振興財団
〒390-0815 松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800
<https://www.mpac.jp/>

シアターパーク企画

『まつもと、景(けい)の声』

松本の変わりゆく風景と私たちの生活に焦点を当て、昔からこの地域に暮らす人々から、かつてあった景色の声を聞き、共に編集し、演劇作品として上演する試み。まつもと市民芸術館のパブリックスペース(シアターパーク)の活用を目的とし、企画を一般公募した。松本に移住して12年の俳優・下地尚子が発起人となり、松本在住の戯曲作家・演出家の藤原佳奈らと作品創作を行う。

[日程]2月8日、9日

[会場]まつもと市民芸術館

●長野県中野市

中野市市民会館ソラホール
〒383-0025 中野市三好町1-3-12

Tel. 0269-22-2111(内364) 小林
<https://www.city.nakano.nagano.jp/docs/2024061300068/>

ソラホールオープニング記念「ソラ市民劇場 ファースト祝賀祭～ふるさと2.0～」

リニューアルオープン記念事業の一環で開催した「さあ、やるぞ!～音楽・演劇・ダンスワークショップ～」の参加者とアーティストによる祝賀祭を開催。ワークショップ参加者が体験したアートとの出会いを紹介するプレトーク&ミニワークショップを皮

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

切りに、小学生から80代までの多様な市民と、講師を務めた国内外で活躍するアーティストが、新しくなったソラホール全館でパフォーマンスを披露する。

[日程] 2月23日、24日

[会場] 中野市市民会館ソラホール

● 岐阜県関市

岐阜現代美術館

〒501-3939 関市桃紅大地1

Tel. 0575-23-1210 阿部令太郎

<https://www.gi-co-ma.or.jp/>

再び浮かび上がるもの

版画家であり、法廷画家としても活躍する松元悠の展覧会。日々過ぎ去るさまざまなニュースや担当した裁判を題材とした版画作品、関連資料を展示。松元は出来事の当事者がいたであろう土地に実際に足を運び、そこでの体験を基に想像を重ね、当事者像を描く。本展では作品や資料に垣間見える他者の姿から、「家族」や「戦争」など、私たちの周囲に沈んだ問題を浮かび上がらせる。

[日程] 1月14日～3月29日

[会場] 岐阜現代美術館



松元悠《宣告(2024/01/25)》(2024年)

● 岐阜県恵那市

中山道広重美術館

〒509-7201 恵那市大井町176-1

Tel. 0573-20-0522 宮下・中村

<https://hiroshige-ena.jp/>

江戸名所ガイドブック

歌川広重晩年の代表作「名所江戸百景」の下絵になったとも考えられる『絵本江戸土産』は、全10編から成る江戸の名所・名店・名物を案内する絵本で、初代歌川広重と、弟子の二代広重との共作。本展では初代が手がけた『絵本江戸土産』と名所絵から江戸の観光スポットを紹介するとともに、江戸で生きた人々の文化や営みにふれる。

[日程] 2月28日～3月30日

[会場] 中山道広重美術館

● 岐阜県多治見市

パロー文化ホール

(多治見市文化会館)

〒507-0039 多治見市豊岡町1-55

Tel. 0572-23-2600 熊谷雅子

<https://www.tajimi-bunka.or.jp/bunka/>

らくごんなあれ!多治見

上方江戸落語体験教室発表会

「らくごんなあれ!」は、2024年から26年まで開催される落語のトリエンナーレ。その一つ目の事業である上方江戸落語体験教室の、高校生から70代までの23人の受講生が発表会に挑む。ゲストとして岐阜大学落語研究会も出演。落語を通して地域を「落語のまち」へ育てていく「らくごんなあれ!」では、ホール内にとどまらず、商店街や公共施設などでも、幅広い年齢層の市民へ落語の楽しさを共有する。

[日程] 2月22日

[会場] パロー文化ホール(多治見市文化会館)

● 静岡市

静岡県文化財団

〒422-8019 静岡市駿河区東

静岡2-3-1

Tel. 054-203-5714 藤井絵

<https://www.granship.or.jp/>

静岡JAM2025

新しいジャズシーンで世界を魅了するアーティストのライブを堪能できる「静岡JAM」。記念すべ

き第1回は、ラジオパーソナリティや音楽フェスの主催者、CM音楽やテーマ曲も多数手がける静岡県磐田市出身のキーボーディスト・ADAM atが登場。国内外で幅広く活動するTRI4TH、fox capture planを迎え、3バンドによるロック・ジャズの垣根を超えたインストゥルメンタルセッションを行う。

[日程] 2月23日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

● 名古屋市ほか

愛知県芸術劇場

〒461-8525 名古屋市東区東

桜1-13-2

Tel. 052-211-7552 仲村悠希

<https://www.stage.aac.pref.aichi.jp/>

ゴールドフィッシュ ～金魚と海とわたしたち～

オーストラリアの人形劇団テラピン・パペット・シアターと愛知県芸術劇場による国際共同制作のパフォーマンス作品を日本語上演する。鑑賞サポートとして、託児サービスや舞台手話通訳付きの公演、リラックス公演も設ける。知立市(学校招待公演)と四日市市でのツアー公演も予定。

[日程・会場] 2月9日、11日: 愛知県芸術劇場、14日: パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)、16日: 四日市市文化会館

● 愛知県碧南市

碧南市藤井達吉現代美術館

〒447-0847 碧南市音羽町1-1

Tel. 0566-48-6602 大野俊治

<https://www.city.hekinan.lg.jp/museum/>

足利市立美術館所蔵・浅川コレクション 夢を追いかけた「前衛」の鼓動

足利市立美術館が所蔵する浅川邦夫氏のコレクションの中から、84点の作品を紹介する企画

展。前衛と呼ばれた時代に活躍した国内外の現代美術作家の作品を中心に、絵画や彫刻、立体造形、版画など、多岐にわたる現代美術作品を紹介することで、コレクターとしての浅川の目を通して、難解といわれる現代美術を理解する契機の一つとする。

[日程] 1月4日～2月24日

[会場] 碧南市藤井達吉現代美術館

近畿

● 滋賀県大津市

滋賀県立美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大

萱町1740-1

Tel. 077-543-2111 芦高郁子

<https://www.shigamuseum.jp/>

BUTSUDORI ブツドリ: モノをめぐる写真表現

SNSが日常に欠かせないツールとなったことで、巷にはふと目に入った「モノ」を撮影した写真で溢れている。本展では、「モノ」を撮影するという表現方法「ブツドリ(物撮り)」を、重要文化財である明治期の写真原板から、文化財写真や静物写真、広告写真、そして現代アーティストの作品まで、200点以上の作品展示により、写真史の重要な表現の形式として紹介する。

[日程] 1月18日～3月23日

[会場] 滋賀県立美術館

● 滋賀県東近江市

東近江市地域振興事業団

〒527-0039 東近江市青葉町

1-50

Tel. 0748-23-6862 端洋一

<https://yokaichi-bungei.com/>

東近江創作ミュージカル2024-25 新作公演『7人の侍ガールズ—便利屋が行く—』

地域で開催されたオーディションによって選ばれた小学3年生から74歳までが参加して上演す

る、ハートフルコメディミュージカル。地元を明るくしたいという思いの下、42人の出演者およびスタッフが、約5カ月の稽古を経てお届けする。日常を素材に、実際の地域の現状や問題を盛り込んで創作された現代劇を参加者全員でつくり上げることで、まちづくりの一環としても役割を果たしている。

[日程] 2月23、24日

[会場] 八日市文化芸術会館

●京都市

京都府立堂本印象美術館
〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3
Tel. 075-463-0007 松尾敦子
<https://insho-domoto.com>

歴史画パラダイス

生涯にわたり数多くの歴史画を描き、高い評価を得ている堂本印象(1891~1975)。本展では、館蔵品の中から、大正時代の《維摩》をはじめ、戦後の第一作となる《太子降誕》、絶筆の《善導大師》など、歴史人物を題材にした初期から晩年の代表作のほか、特別に京都の神社に奉納した神を描いた絵も併せて展示することで、印象の溢れる才能を堪能することができる。

[日程] 1月21日~3月30日

[会場] 京都府立堂本印象美術館

●堺市

フェニーチェ堺
〒590-0061 堺市堺区翁橋町2-1-1
Tel. 072-223-1000 青木郁
<https://www.fenice-sacay.jp/>

5周年記念事業 フェニーチェ堺「第九」コンサート

堺を拠点に活躍している大阪交響楽団・堺シテリオペラとの連携・協力のもと、堺市民を中心とした公募の合唱団「フェニーチェ堺第九記念合唱団」総勢100名と共に開館5周年を祝う。

堺をテーマに作曲された『一古えの堺へー百舌鳥耳原に寄せる3つの墓碑銘』(糺場富美子作曲)を14年ぶりに再演するほか、これまでのコンサートを振り返る映像演出など、盛りだくさんの記念公演となっている。

[日程] 2月23日

[会場] フェニーチェ堺

●神戸市

兵庫県立美術館
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
Tel. 078-262-1011 小林公
<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

阪神・淡路大震災30年 企画展「1995⇄2025 30年目のわたしたち」

阪神・淡路大震災から30年目の節目を迎えるにあたり、森山未來、梅田哲也をはじめとする関西にゆかりのある6組7名のアーティストの作品を発表。この30年間で、多くの自然災害や紛争に見舞われ、明るい未来を想像することはますます困難な状況となりつつも、そんな時代に求められる“希望”について考え続けるためのひとつの場になることを目指し、本展を開催する。

[日程] 2024年12月21日~3月9日

[会場] 兵庫県立美術館

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ
〒668-0031 豊岡市大手町4-5 アイティ7F
Tel. 0796-24-3000 居相歩美
<http://www.platz-npo.com/>

大駱駝艦・田村一行舞踏公演 舞踏『但馬風土記』~千里の放浪

2017年度より市民プラザで継続実施してきた市民参加型舞踏事業から発足した市民舞踏団「但馬鶴鶴楼(たじまかんじゃくろう)」と大駱駝艦の田村一行によるオリジナル舞踏公演。『但馬風土記』は、田村が地域の物

語や風土、人々からインスピレーションを受けて創作する作品で、基礎訓練やクリエイションを経て、大駱駝艦メンバーと市民が身体表現の極限に挑む。

[日程] 2月9日

[会場] 豊岡市民プラザ

●兵庫県養父市

養父市まちづくり文化交流課
〒667-0021 養父市八鹿町八鹿538-1
Tel. 079-662-0071 林愛
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/bunka/index.html>

NAGUSAI~山の上の芸術祭 in YBファブ~

2022年に市内の重要文化財「名草神社」の保存修理完成を記念して開催したイベントを、会場をやぶ市民交流広場に移して3年ぶりに開催。前回に引き続き、近隣市の豊岡市にある芸術文化観光専門職大学との協働で、好評だった名草神社にまつわる構成劇『わすれなぐさ』(作:永井楓華、演出:田上豊、音楽監督:多久和かおる)を創作・上演するほか、公演にも登場するオリジナルの仮面をつくるワークショップなど、子どもから大人まで楽しめるプログラム。

[日程] 2月15日

[会場] やぶ市民交流広場

●奈良県奈良市

奈良県立美術館
〒630-8213 奈良市登大路町10-6
Tel. 0742-23-3968 松川綾子
<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

大和の美~古都を彩った絵師たちの競演

奈良の文化・芸術と言えば、考古学や仏像などの分野が目ざされがちであるが、本展では奈良の絵画に焦点を当てる。近世以前の書画から近代以降の洋画や日本画までを通覧することで、

奈良の絵画史を振り返り、奈良の美術がもつ魅力や特質を概観するとともに、洋画家・大村長府(1870~1925)といった絵師、画家たちに光を当てる。また、奈良の伝統工芸を併せて展示し、大和に息づく美と技の世界を堪能できる。

[日程] 1月18日~3月9日

[会場] 奈良県立美術館

中国・四国

●島根県安来市

安来市総合文化ホール アルテピア
〒692-0014 安来市飯島町70
Tel. 0854-21-0101 田中小百合
<https://www.artepia.jp/>

安来今昔物語

講師の玉田玉秀斎がこの公演のために創作した安来にまつわる講談と、かとうかなこのアコーディオンによるオリジナル公演。古くから数多く残る安来の民話を基に、地域の人々の想いや考えを踏まえ創作された講談は、安来市にゆかりのある人はもちろん、市外から訪れた人も楽しめる内容となっている。

[日程] 2月2日

[会場] 安来市総合文化ホールアルテピア

●島根県浜田市

石見音楽文化振興会
〒695-0011 江津市江津町914-6 駅前ビル2F
Tel. 090-3088-0333 川北朋
<https://iwamiongaku.jp/home-2/>

ハイブリッドウインドオーケストラ第6回定期演奏会~吹奏楽の遊園地~

浜田市と江津市に移住したUITターンの若者で構成されたハイブリッドウインドオーケストラの定期演奏会。音楽活動を通じて地域社会全体の文化の質向上に貢献することを目的に活動しているオーケストラで、今回は学

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

校部活動の地域移行の取り組みとして結成された小学生～大学生による石見ユースウインドオーケストラと、浜田高校吹奏楽部とのコラボステージも見どころの一つとなっている。

[日程] 2月23日

[会場] 石央文化ホール

● 広島市

JMSアステールプラザ

〒730-0812 広島市中区加古町4-17

Tel. 082-244-8000 粟河瑞穂

<http://h-culture.jp/>

アステールプラザ プロデュース
湯浅永麻ダンサー育成プログラム
[Dance Intensive Hiroshima
ダンス・インテンシブ広島(DIH)]

若手ダンサーの育成と創作を目的として開催し、国内外で活躍するダンサーを輩出している育成プログラム。3期目となる今回は、世界的に活躍する広島出身のダンサー・湯浅永麻を講師に迎え、オーディションで選抜したメンバー11人と共に全12日間の新作クリエーションを実施。ゲストダンサーの小尻健太も加わり、ダンスのテクニクにとどまらず、多くの学びを得た若手ダンサーが集大成を披露する。

[日程] 2月8日、9日

[会場] JMSアステールプラザ



クリエーションの様子

● 広島県福山市

ふくやま芸術文化財団

〒720-0802 福山市松浜町2-1-10

Tel. 084-928-1800 菅野智範

<https://www.fukuyamabunkahall.jp/>

第20回芸能大全 まつりの世界

備後府中荒神神楽をはじめ民俗芸能が盛んな福山で、備後地域の芸能の発掘・継承を目的として開催している「まつりの世界」。20回目の今回は地元3団体(沼隈神楽団、上戸手正和会囃子部、神代子供神楽)に加え、神楽どころの安芸高田市から高猿神楽団をゲストに迎え、演舞を披露する。地域の伝統芸能を紹介することで、継承に向けての取り組みの機会となることも期待されている。

[日程] 2月23日

[会場] ふくやま芸術文化ホール
リーデンローズ

● 徳島県徳島市



徳島県文化振興財団

〒770-0835 徳島市藍場町2-14

Tel. 088-622-8121 宇野榮展

<https://kyoubun.or.jp/>

徳島の記憶 昭和編～この街の
新たな記憶の物語～

県内在住者から公募した徳島での昭和時代の個人エピソードを基に書き起こされた戯曲を、内藤裕敬の脚本・構成・演出により、オムニバス作品として上演する。公募で集められた県内の劇作家も育成も兼ねて、エピソードの選定から参加している。昭和時代に生まれていない人も親世代のエピソードとして世代を問わず楽しめる作品を目指す。時代とともに徳島の歴史を見つめ直す作品を3年かけて製作予定で、本公演はその1作品目となる。

[日程] 2月2日

[会場] あわぎんホール

九州・沖縄

● 熊本県津奈木町

つなぎ美術館

〒869-5603 津奈木町岩城494

Tel. 0966-61-2222 桜場啓子

<https://www.tsunagi-art.jp/>

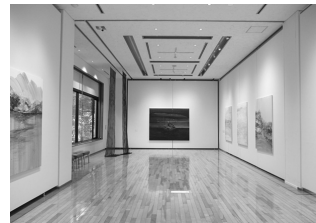
アーティスト・イン・レジデンス つなぎ2024成果展

ホワン・ピンリン さざめく波と
木漏れ日: 思いがとどまる場所

廃校を利用した地域交流型滞在制作と美術館での個展を組み合わせたアーティスト・イン・レジデンス事業。今回は、台湾の新竹生まれのホワン・ピンリンを招聘。2024年8月から3カ月間津奈木町に滞在し、作品を制作した。静かな不知火海と豊かな山々に囲まれた津奈木町にて人々と交わりながら制作した新作を成果展として展示する。

[日程] 2024年12月7日～2月24日

[会場] つなぎ美術館



展示風景

● 大分県大分市

iichiko総合文化センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 八坂千景

<https://emo.or.jp/>

おんがくのアーティスト・イン・
レジデンス

—「音楽を創る」5日間—

県内外で活躍するアーティストが、一定期間をホールに滞在しながら作品の制作を行うプログラム。リハーサルからコンサートまで“音楽を創る”過程をほぼすべて見る事ができるのが特徴。2年ぶりの開催となる今回は、大分県出身のヴァイオリニスト・水谷晃(東京都交響楽団コンサートマスター)を中心に、新たにNHK交響楽団ヴァイオリニストの後藤康が参加し、総勢13名の若手音楽家が協演。4日間の公開リハーサルを経て、最終日のファイナルコンサートまでを

お届けする。

[日程] 2月20日～24日

[会場] iichiko総合文化センター

● 鹿児島県鹿児島市

霧島国際音楽ホール

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 川口裕介

<https://miyama-conseru.or.jp/>

みやま音楽塾 修了演奏会

鹿児島県内の中学生から社会人までを対象として、演奏技術や音楽理論などを幅広く学べる「みやま音楽塾」。今年度の8月から2月にかけて学んできた成果を発表する演奏会を開催する。第10回となる今回は、鹿児島県出身の作曲家・平山雄一による音楽塾10年記念委嘱作品を初演するほか、これまで音楽塾に携わってきた人たちや観客も一緒に『宝島』を演奏する企画も用意されている。

[日程] 2月16日

[会場] カクイクス交流センター

● 鹿児島県奄美市



ほこらしゃ奄美音楽祭実行委員会

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1(鹿児島県文化振興課内)

Tel. 099-286-2537 上堀那緒

<https://hokorasya03.amami.jp/>

第3回ほこらしゃ奄美音楽祭

2021年の世界自然遺産登録により、奄美群島の豊かで貴重な自然への関心が高まったことを契機に、奄美独自の文化である島唄のさらなる魅力発信を目的として始まった音楽祭。3回目となる今回も、鹿児島県出身の作曲・編曲家、吉俣良の総合プロデュースにより、クラシック演奏、正調島唄、島唄とオーケストラの共演を披露する。今回初の試みとして、出演唄者による島唄ワークショップも開催予定。

[日程] 2月9日

[会場] 奄美川商ホール

地方独立行政法人の仕組みと大阪市の取り組み

制作基礎知識シリーズ Vol.54

地方独立行政法人

講師
小林真理
(東京大学大学院人文社会系
研究科 教授)

1. 独立行政法人制度の沿革

独立行政法人制度は、平成11(1999)年の独立行政法人通則法の制定によって始まる。1996年から98年まで内閣を率いた橋本龍太郎首相は行政改革を熱心に進め、その後の小泉純一郎以降も自民党政権下で郵政民営化に象徴される行政改革を積極的に推進。基本方針は肥大化した行政の役割を、民間にできることは民間で担ってもらったことだった。当時ニュー・パブリック・マネジメント(新しい公共経営)という考え方が海外から輸入され、公共経営にも徹底した競争原理を導入する方向性が目指された。

政策分野においては、政策の立案と執行を切り離す考え方が持ち込まれることによって、より行政本体の役割を限定する方向性が目指された。行政が直営で担っていたものについては、新たな法人制度を創設することによって行政から一定の距離を保った独立的経営を行うことになった。そのひとつが独立行政法人制度である。2001年から03年にかけて、国立の博物館群、美術館群、そして劇場群(芸術文化振興基金を含む)がすべて独立行政法人化された。独立行政法人には3つの分類(中期目標管理法人、国立研究開発法人、行政執行法人)があり、先に挙げた文化関係の独立行政法人はすべて中期目標管理法人である。毎年文化庁の予算の約1/3程度はこれら独立行政法人に対する運営費として充てられている。

2. 地方独立行政法人と博物館

地方行政において独立行政法人制度が取り入れられたのは2003年である(地方独立行政法人法)(以下、「法」)^{*1}。地方自治法が改正され、「住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施されることが必要な事務及び事業であって、地方公共団体が自ら主体となって直接に実施する必要のないもののうち、民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるもの」(法第2条)について、地方自治体が効率的・効果的に運営することを目指

して、地方独立行政法人が設立できるとした。03年は指定管理者制度が導入されたのと同じ年であり、地方行政改革の一環として制度化された。

指定管理者制度は、公の施設の管理を効果的に運営するために地方自治体が必要と認めるときには、期限を定めて民間企業等まで含めた管理者を適宜指定する制度である。これにより、指定を巡ってそれまで専門性の高い業務を担う目的で設置された地方自治体出資の財団法人と民間企業などが競争を強いられることになった。

指定管理者制度の導入は、財団等が期限ごとに管理運営者として指定し直されることを意味し、法人そのものの存続や専門人材の雇用が不安定化することとなった。当該自治体内部で収集した個性ある資料を管理することを前提に設置された財団等は、全国展開などを図る民間事業者と効率化の点では比較にならない。指定管理者制度の運用を行う自治体の方針や意識を変更するか、あるいは法人のあり方をそのものを移行しなければ、継続的な管理運営ができない状況に置かれてしまう。

ところが、地方独立行政法人の業務範囲を定めた法第21条^(*)に博物館事業は含まれていなかった。博物館(美術館は美術資料を扱う博物館)は、博物館法上「資料の収集・保管・展示・調査研究」を行い、学芸員がこれらの専門業務を扱う研究機関としての役割を担っている施設であり、管理運営の業務が専門的および多岐にわたることを考えても、管理運営の組織が指定期間ごとに変更されることは望ましいとは言えない。このような領域のサービスについて、地方自治体が効率的効果的に運営するあり方として地方独立行政法人を初めて検討したのが大阪市だった。

3. 大阪市の取り組みの経緯と博物館の地方独立行政法人化

大阪市が地方独立行政法人大阪市博物館機構を設立したのは2019年で、それは国に制度改正を促す困難な道のりだった。

*1 有限責任監査法人トーマツ・パブリックセクター・ヘルスケア事業部(編)『地方独立行政法人—制度改革と今後の展開』(2018年、第一法規)。

*2 地方独立行政法人通則法第21条で定められている地方独立行政法人の業務範囲は、(1)試験研究、(2)大学または大学及び高等専門学校の設置管理、(3)事業の経費を当該事業の経営に伴う収入で充てる事業で、①水道事業、②工業用水道事業、③軌道事業、④自動車運送事業、⑤鉄道事業、⑥電気事業、⑦ガス事業、⑧病院事業、⑨その他政令で定める事業、(4)社会福祉事業。

大阪市では、指定管理者制度が導入された03年から博物館群の地方独立法人化を検討し、市側も、そして博物館の管理運営を行う団体側の研究者も公立博物館にとって最適な運営方法を模索する研究を続けた^{(*)3}。先にも記したように、当時の地方独立行政法人制度において、博物館事業は地方独立行政法人の業務範囲ではなかった。そこで、06年10月に第10次構造改革特区^{(*)4}提案に応募し、博物館の独立行政法人化を目指したが、採用されなかった。同じ年に、公益財団法人日本博物館協会が全国博物館大会で、公立博物館の地方独立行政法人化を要望したが、これも受け入れられない。08年に大阪市は、再度第13次構造改革特区提案に応募するも、不採択。12年1月に第30次地方制度調査会(総務省)第7回専門小委員会において、「博物館の経営形態の選択肢として地方独立行政法人の活用が必要」という趣旨の要望を、府知事・市長連名で提出。さらに13年には上記要望を当時の三重県知事が提出した。

こうした動きに対して、やっと13年、博物館の地方独立行政法人化を可能にする政令改正がなされた^{(*)5}。地方独立行政法人法制定から実に10年の歳月が流れていた。

4. 地方独立行政法人の運営の仕組み

地方独立行政法人は、法第3条において、業務の公共性、透明性、自主性が掲げられている。それを実現していくために、設立団体の長

が、3年以上5年以下の期間において地方独立行政法人が達成すべき業務運営に関する目標を中期目標として指示し、地方独立行政法人は、中期目標を達成するための計画(中期計画)、そして年度計画を策定して、設立団体の長に認可を受ける。毎年度、これらの年度事業について、設立団体の長の評価を受けなければならない。これがいわゆるPDCAを導入するための制度的根拠となっている。

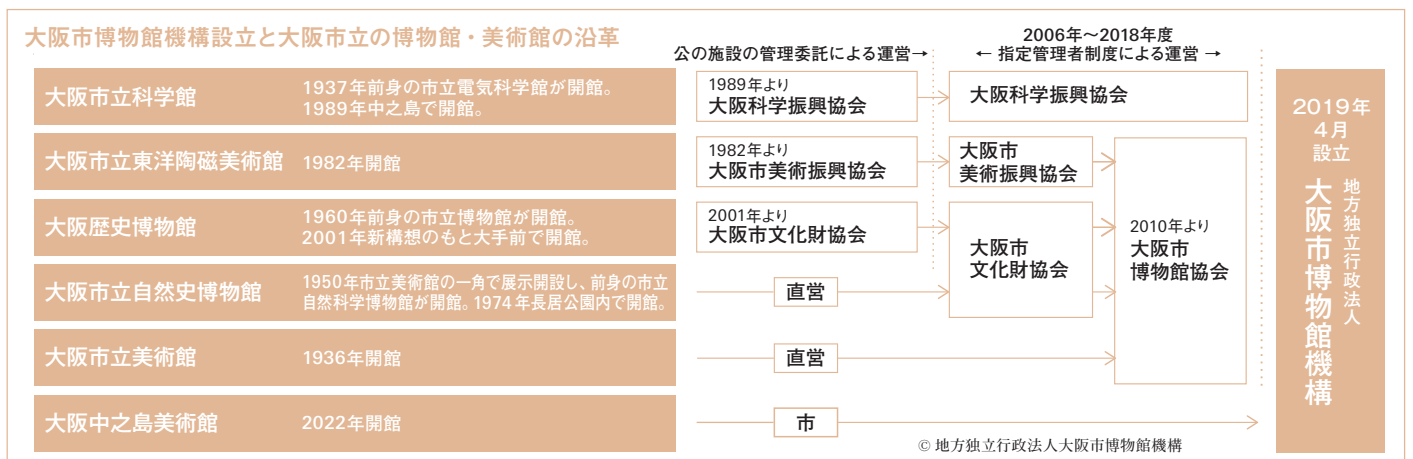
一般的にこの制度に移行することに伴うコストや評価等の業務運営上のコストが生じることになるが、法人運営および事業執行の弾力性の向上、人事管理の弾力化、サービス・質の向上が図られるといわれる。とはいえ独立行政法人の形態を十分に活かすためには、実質的な地方自治体との距離感、職員側の意識の変革も鍵となる。以前の外郭団体のときよりも、積極的に独立性を確保していくための総合的な経営感覚を磨く必要があるし、そのような人材を配置していくことができるかが問われる。単純に民間の企業経営者を呼んでくればよいというものではなく、この分野の専門性や特性の活かし方を真摯にとらえる感覚も問われる。

さらにこの制度を活かしていくためには、運営費を交付する観点からしても、設立団体の長が示す中期目標と評価は重要である。地方独立行政法人となっても地方自治体側の、博物館経営に関する専門性への理解と、評価の基準・方法が、より良い博物館経営において重要であることに変わりはない。

*3 『日本の博物館のこれから—「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営(平成26年—28年度日本学術振興会科学研究費助成事業研究成果報告書、基盤研究(C)課題番号JP26350396)は、さまざまな制度改革が行われている中で、博物館管理運営経営の方向を研究した重要な成果である。特に、本稿との関係で言えば、山西良平「公立博物館の地方独立行政法人化の展望—大阪市の事例を中心に」、佐久間大輔「博物館総合調査から見た直営館と自治体出資法人指定管理館の現状と課題—運営継続に向けた課題を中心に」、高井健司「公立博物館の経営形態をめぐって」は制度改革を促した研究と位置づけられる。
高井健司による「地方独立行政法人による博物館経営が実現するまで—大阪市博物館機構の誕生—」(『ミュージ』124号24—25頁、2019年)には設立の経緯が、同「持続可能な博物館経営0の実現に向けて—PDCAサイクルをめぐる現状と課題—」(大阪市立自然史博物館『日本の博物館のこれからⅢ』31—40頁、2021年)も今後の地独法制度の運営について考えさせられる。

*4 構造改革特区は、「実情に合わなくなった国の規制について、地域を限定して改革を進め、地域を活性化させることを目的」として2002年度に創設された制度。

*5 第一次改正は平成25年政令第298号。地方独立行政法人法施行令第3章業務について、「博物館 美術館 植物園 動物園又は水族館」の設置及び管理については、法第21条第5号(現在は第6号)に規定する公共的な施設の設置及び管理として、地方独立行政法人の業務の範囲とされた。



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

神戸市 神戸文化ホール ヴェルディ: オペラ 『ファルスタッフ』



上写真撮影: 栗山主税

●ヴェルディ: オペラ『ファルスタッフ』
【主催】神戸文化ホール(公益財団法人神戸市民文化振興財団)
【会期】2024年12月21日
【会場】神戸文化ホール 大ホール
【指揮】佐藤正浩 【演出】岩田達宗

●神戸市室内管弦楽団
1981年、神戸室内合奏団として設立。2018年に管楽器団員が加入して神戸市室内管弦楽団と改名。神戸文化ホールでの年5回の定期演奏会のほか、神戸市混声合唱団との合同演奏会、東京や大阪などでの演奏会、アウトリーチ活動などを行っている。2021年よりチェリストで指揮者の鈴木秀美が音楽監督。現在、コメンターは27名。

●神戸市混声合唱団
1989年設立。神戸文化ホールにて年2回の定期演奏会を行うほか、神戸市室内管弦楽団との合同演奏会やアウトリーチ活動も行っている。2021年より指揮者の佐藤正浩が音楽監督。現在、男声15名、女声18名、ピアニスト7名(準団員含む)の計40名が所属。3年に1回、現役団員の審査がある。

●新・神戸文化ホール(仮称)
現在の神戸文化ホール(令和6年度地域創造大賞受賞)の老朽化に伴い、三宮周辺の再開発によって整備される再開発ビル内に新築移転予定。大ホール(1,800席程度、2028年中に開館)、中ホール(700席程度、2030年以降開館)、練習室など。

2024年12月21日、神戸文化ホール開館50周年記念事業としてヴェルディのオペラ『ファルスタッフ』が上演された。同ホール初の本格オペラ制作にして完全オリジナルのプロダクションだ。指揮は、神戸市混声合唱団の音楽監督で神戸市室内管弦楽団とも作業を重ねてきた佐藤正浩。演出は、神戸出身でオペラ演出の第一人者の岩田達宗。合唱のみならずソリストの多くも市の合唱団の現役あるいはOG。神戸の人材が総力を挙げる中、日本を代表するバリトン歌手の黒田博が客演し、傍若無人ながら憎めない主役ファルスタッフを好演。質の高い舞台に、観客から大きな拍手が送られた。

●
神戸市混声合唱団と神戸市室内管弦楽団という2つのプロ集団の拠点である神戸文化ホール。運営する神戸市民文化振興財団の服部孝司理事長は、その成り立ちをこう語る。

「市民の働きかけで、まず弦楽だけの神戸室内合奏団、次に合唱団が誕生し、その運営のために外郭団体が出来て、神戸市の職員がアウトリーチしていましたが、2016年より当財団の内部組織となり、18年からは管楽器を加えた現在の形で活動しています。合唱団の音楽監督は佐藤さん、管弦楽団の音楽監督は鈴木秀美さんに就任いただき、演奏家やホールのマネジメントは専門の人材に任せて、演奏面、運営面を充実。集客や収入も以前より上向きつつあります」

合唱団は月給制。管弦楽団は、定期演奏会やアウトリーチなどへの出演を主とした契約制。「市のプロフェッショナル集団として、アウトリーチで市内を回ると同時に、全国にも発信しているようにしています。今回の『ファルスタッフ』にはその“旗揚げ”の意味合いがあります」(理事長)

財団の音楽事業部長、楽団部長、チーフプロデューサーを務める森岡めぐみさんは、住友生命いづみホールに30年以上勤務した、理事長の言う専門人材の一人。今回のオペラ上演の発案者だ。「佐藤マエストロはオペラのエキスパートですし、両団体の活動を多くの人に知ってもらうには、総合芸術で訴求力のあるオペラはうってつけ。岩田さんに、女性が不幸になら

ず男性を懲らしめる内容だからと『ファルスタッフ』を提案された時は、さほどメジャーというわけではない作品だけに不安でしたが、チケットの売れ行きは好調で、完売。同じ演出家の同じ演目を予定する藤原歌劇団と装置協力を結び、立派な舞台ができたのも大きいです」。

自らタクトを振った佐藤マエストロは、2団体の魅力と可能性を次のように分析する。

「神戸市混声合唱団の特長は、合唱集団ではなく声楽家集団であること。合唱団の外ではオペラに出演したり、合唱指揮者をしていたり、それぞれが活躍していて、色々なものに“化けられる”可能性を持っています。僕が音楽監督に就任した当初は皆、自分が持っている声のうち50%くらいは音程や響き、ハーモニーに費やしている印象でした。勿論、合唱ですから揃えることは大事なのですが、自分の声を殺す必要はない、いつも歌っている声でと言いつつ、今では多様な方向性ができています。一方、室内管弦楽団は鈴木監督の下、古典派の音楽で鍛えられているだけあって、機動力や爆発力があることが『ファルスタッフ』に生かされました。というのもこの作品は、テンポが次から次へと変わりますし、細かい音符を整理し俊敏に弾き分けなければならないからです。オペラ特有の歌やフレージングは古典と違いますが、そこは僕が膨らませ、皆ついてきてくれました」

神戸文化ホールは28年、神戸・三宮再整備事業の一環として建つ高層ツインタワーに移る。それまでの展望についても訊ねると、「劇場があり合唱団と管弦楽団があって、今回のように2~3名ゲストでソリストを招聘すれば形になるというのは、ここの強み。フルのオペラを継続してつくとすると経済的な課題が大きいですが、演奏会形式などもう少し小さな規模でも、2つの団体とホールが一体となることができることを積み重ねていきたいですね」と返ってきた。

理事長は「新ホールのオープニングに祝祭的なオペラがあったら素敵なのではないか」と語る。『ファルスタッフ』は活動の集大成であると同時に、未来を見据えた新たなスタートでもあるのだ。(高橋彩子)